

滋賀県野洲市小南水害履歴マップ ① 1959(昭和34)年8月14日(台風7号)・9月26~27日(伊勢湾台風)

内領地区における 地理状況 被害状況

2022(令和4)年11月16日、2022(令和4)年12月20日の小南自治会館での聞き取り調査に基づき作成

※小南の情報のみ掲載。近江八幡市側の浸水範囲は未確認のため、描画しない。

作成 関西大学 景観研究室(野洲市都市計画地図上に加筆)

0m 100m 200m

小南の概要

地理状況：小南地域全体

- 小南という地名は、昔から水害が多かったことから、波が込む場所という意味で込波(コミナミ)とも表記されていた。
- 小南の標高は日野川の支流から下流にかけて標高が低くなっており、内領地区内でも標高差がある。例えば朝鮮人街道付近とツバナ付近とは、ツバナ付近の方が2.0m程度低くなっている。
- 昭和34年当時、地域の交通の利便性確保のために、旧仁保橋、大貝橋、ふるかわ橋の箇所の日野川堤防は切通しとなっていて、橋は堤防天端より約1.0m低い位置に架けられていた。
- 昭和34年当時、日野川堤防には大きな樹木が多数生えていた。
- 堤防直下には大きな野池があり、周囲は松林で覆われていて釣りや釣りが出来る場所もあった。
- 平成14年に実施された日野川改修工事によって、仁保橋付近のAさん宅を含む住宅数軒が移転した。

全体被害

被害状況：小南 内領地区

- 27日朝7時頃、ツバナ地先で日野川堤防が決壊(決壊④)。集落に氾濫水が逆流する形で押し寄せ、広範囲で浸水被害が発生した。
- ツバナ地先での決壊から4時間後の朝11時頃、対岸の小田(近江八幡市)の日野川堤防が決壊(決壊⑤)すると、集落内の氾濫水が減水し始めた。
- 浸水によって汲み取り便所の汚物が生活用の井戸に流入し、生活用水が汚染された。その状態が3日間続いた。
- 区内の多くの世帯が農業を営んでいたが、この災害で多くの稲が生育不良となった。そのため、多くの農家が自家用の米も収穫できない状況となった。

被害状況：林地区

- 家屋が密集しており、氾濫水が地区全体に到達するのに時間がかかった。

朝鮮人街道の標高
字里ノ内の集落より、標高が2.0m程度高い。

被害状況：Hさん宅
床上浸水30cm。
家の前の道路は約150cm浸水した。

被害状況：皆込地区・朝鮮人街道周辺
○決壊箇所から離れている分、氾濫水の到達が遅かった。
○馬場地区よりも標高が高いので浸水深も比較的浅かった。
○氾濫水が到達した後、あっという間に水位が上昇していった。
○Eさん宅前の坂付近では、5分間で5cmも上昇した。
○Eさん宅は皆込堤防上にあり標高が高かったので浸水しなかった。

皆込(かいごめ)堤防
高木から流下してくる氾濫水が小南地域に流れ込まないようにつくられた堤防。
圃場整備と県道2号線バイパス整備の際に大半の区間が撤去された(点線部分)。
現存する区間は実線区間のみで、現在東半分は道路に、西半分は私有地となっている。

被害状況：Cさん所有の田畑の洗掘
濁流が流れ込んだ結果、深く洗掘され池のようになった。

被害状況：堤防直下の松林と野池(位置不明)
堤防際に生えていた樹木も含めて全て流失した。

土砂の堆積①
この付近は、収穫前の稲の穂先が30cmしか見えないほど、土砂が堆積した。

土砂の堆積②
一面が浸水し、河原のような状態となり50cm以上、土砂が堆積した。

被害状況：旧仁保橋
27日深夜1時、日野川増水により流失。

被害状況：旧Aさん宅付近
用水路が氾濫し、道路が60cm程度浸水した。

被害状況：小南墓地
浸水により、大量の墓標が家棟川の堤防に沿って、Eさん宅近くの藪あたりまで広範囲に流出した。

- 凡例(河川・道路等)
- 浸水範囲
 - 氾濫水の流れ
 - 切通し(水害当時)
 - 樋門(水害当時)
 - 朝鮮人街道
 - 堤防(水害当時)
 - 河川(水害当時)
 - 溢水・決壊箇所
 - 自主決壊箇所

- 凡例(建物・橋)
- 現存
 - 水害当時存在(現存していない)
 - 床上浸水した
 - 床下浸水した
 - 他施設・住宅

國主神社の高上げ、防備林
拝殿のあたりは周辺より約110cm高く、本殿はさらに約50cm高い。これは、浸水対策として高上げされたためではないかとみられる。境内周囲の竹藪は、流木や土砂の境内への流入防止対策として設けられたのではないかと考えられる。

被害状況：馬場・寺村地区
馬場地区
○決壊箇所ほど近いので一気に氾濫水が押し寄せ、内領地区で最も深く浸水した。
○馬場通(國主神社前?の道路)の水路が氾濫した。
寺村地区
○多くの家屋が床上浸水した。
○来迎寺より西側の家屋は軒下あたりまで水没し、地区全体が池のような状態になった。

被害状況：Dさん宅
床上浸水30cm。

被害状況：Jさん宅
離れに水が押し寄せ、高台に載せていた床や襖も水没した。

被害状況：Gさん宅
屋根の軒まで浸水した。現在でも、家の柱に当時の浸水位を記している。

被害状況：Cさん宅前の道路
腰以上の水位の濁水が流れていて道路の境界が分からなくなっていた。

